

病床機能分化・連携ワーキンググループ結果概要

1 開催日時等

日時 平成30年11月27日（月） 19時～20時40分

場所 茅ヶ崎市役所 4階 第5会議室

2 参加者

計42名

- ・医療機関 一般病床及び療養病床を有する病院 全20病院中20病院
精神病床のみを有する病院 全4病院中2病院
計 22病院 39名
- ・藤沢市医師会長、茅ヶ崎医師会長、湘南病院協会会長

3 議題

(1) 地域医療構想を踏まえた「2025年に向けた対応方針」について

- ・事務局からの説明
- ・各病院の「2025年に向けた対応方針」について（各病院より）

(2) 意見交換

(3) その他

4 結果概要

(1) 地域医療構想を踏まえた「2025年に向けた対応方針」について（別紙）

- ・各病院より、「2025年に向けた対応方針」に基づき、現時点の予定等についてご説明いただいた。
- ・精神病床のみの病院からも、現時点での方針等についてご発言いただいた。
- ・定量的基準の神奈川県における検討状況について報告した

(2) 意見交換における主な意見・質疑等

<過剰な病床機能への転換について>

- 急性期への移行・増床を行う3つの病院については、現在の稼働率なども考慮しながら、地域医療構想調整会議でも議論することになるだろう。プランに記載の病床稼働率については、今後、機能・病棟ごとに分けて算定してもらう必要もあると思う。

<地域の病床機能・定量的基準について>

- 厚生労働省が高度急性期1日3,000点以上としていたので、当院ではそれに基づき高度急性期の病床数を整理して運営していきたいと思っていたが、いつのまにか定義が不明確になってしまっているので、県で定義を決めてもらいたい。

- 湘南東部では、高度急性期・急性期が過剰になっているが、高度急性期と急性期を分ける意義があいまいかなと感じている。県はどう考えるか。
 - ⇒ (県) 国は4機能にしているが、高度急性期と急性期は厳密に分類する必要があるかは少し疑問もある。それよりも急性期と回復期の方が課題。急性期で報告しているが、実際には急性期と回復期の両方の機能を持ち、国が言う回復期的要素の強い病棟もあり、そこを見極めながら議論していただく必要がある。
- 急性期と回復期に関して、回復期リハ病棟のところはわかるが、急性期病棟の中にも退院を待っている患者がいる。リハビリはやらないが在宅に復帰するまでの間待っていることも結構あるが、病棟単位となると、分けるのがなかなか難しい。
- 回復期には、回復期リハビリテーション病棟だけでなく地域包括ケア病棟も含むとのことだが、回復期の不足病床数895床のうち、それぞれの割合はどう考えているか。
 - ⇒ (県) 回復期の中の回復期リハ病棟と地域包括ケア病棟の割合は決まっていない。他地域でも、リハ病棟はそれほどなくてもよいのではないかという意見がある一方で、地ケア病棟は今後高齢者が増え、在宅との連携を考えるうえでもっと必要ではないかという意見もあるが、現時点で数値化はしてはない。実際には、地域の皆様の肌感覚が頼りの部分があり、ご意見を聞きながら進めていきたい。
- この問題は、高度急性期、急性期がはっきり区分けされていない、グレーゾーンが多いということが出発点にあり、どう扱うかを示さないと結論が出ないのではないか。

上段 医療機関名 下段 開設者名	現状【病床種別】					現状(2018年)【病床機能】①					現状【指定・届出等】					2025年【病床機能】② ※下段は現状との差(②-①)										機能変更あり	うち過剰な病床機能への転換	うち増床	2025年に向けた対応方針(抜粋)			WGでの発言等
	一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	救急病院	緩和ケア病床	地域包括ケア病床(病床)	回復期リハビリテーション病床	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等				病床機能の変更予定(増床・減床を含む)	診療科や、その他の機能の変更、見直し等の予定		
湘南藤沢徳洲会病院	許可病床	419				419	139	280			419	○						139	280					419	・循環器、呼吸器、救急の受入の強化 ・他医療圏と比べ小児科病院数が少なく、小児科の機能充実が必要。併せて、病児保育、病後児保育の機能、並びに小児レスパイトケアの機能への取組も必要			・救急医療を中心に実施。最近は前立腺がん手術でロボット手術にも取り組み、他の手術にも応用していきたいと考えている。 ・この地域は、乳がんの他地域への流出率が高いので、乳がん専門の医師を探しているが苦労している。 ・高齢で複数の疾患をもつ患者が増加。総合診療チームが3チームあるが、消化器、呼吸器外来が増えているので、分けていかないと対応できないと感じている。				
医療法人徳洲会	稼働病床	419				419	139	280			419	告示						-	-	-	-	-	-	-								
湘南慶育病院	許可病床	30	200			230	30	150	50		230	○	○	○					30	150	50			230	地域医療から回復期リハビリテーション、慢性期医療に至るシームレスな医療を提供する。			・開院後1年経過、まだ長期展望は立てられない状況だが、現状大きな変更は考えていない。 ・病棟は急性期～慢性期までシームレスな配置をしており、患者にあったケアが出来るところが特徴。 ・藤沢市北部において、病院・クリニックと連携したフレキシブルな医療を行っていくことが今後の課題であり、在宅医療や介護事業所との連携を強化して退院支援を行っていくことが今後の目標。				
医療法人社団健育会	稼働病床	30	200			230	30	150	50		230	告示	50床	100床				-	-	-	-	-	-	-								
茅ヶ崎新北陵病院	許可病床	180	109			289		58	231		289			○					44	0	108			152	・自院の在宅サービスをさらに充実させ、地域包括ケアシステムの中で医療と介護をシームレスに提供するため、在宅の後方支援として、急性期機能を有する ・精神病床を有することにより、認知症の高齢者受入れ、合併症への対応を充実させるためにも、急性期機能は必要。 ・急性期医療機関との連携を図り、急性期治療の後、地域における後方病院としての役割を慢性期病床で担う。	2020.2月(茅ヶ崎中央病院建替Ⅰ期工事完了予定):276床へ減床(茅ヶ崎中央病院から移設の13床を返還) 2022(Ⅱ期工事完了予定):124床を茅ヶ崎中央病院へ移設し152床へ減床 茅ヶ崎新北陵病院内の改修工事を経て、湘南さくら病院(精神単科)より精神病床156床を移設(湘南さくら病院は廃止)	・回復期リハビリテーションの機能は茅ヶ崎中央病院へ移管 ・病床数に減少はあるが、慢性期の機能は維持	・急性期への転換44床については、既にグループ内で訪問介護等の在宅サービスを運営しており、地域の中でシームレスに医療を提供するため、病院として急性期機能が必要と考えている。 ・さくら病院から精神科病床を移動するため、今後増加する高齢者の認知症の合併症や身体疾患の重症化に対応していくためにも、急性期機能は必要 ・急性期医療機関との連携を引き続き行っていくため、慢性期の108床は残したい				
医療法人社団康心会	稼働病床	180	109			289		58	231		289		58床					-	+44	△58	△123	-	-	△137					2019年度～			
茅ヶ崎中央病院	許可病床	66				66	66				66								104	100	120			324	・眼科、耳鼻咽喉科を中心とした視聴覚センターの提供体制は維持していく。 ・地域における救急医療の一翼を担う。 ・PET-CTによる悪性腫瘍の早期発見からサイバーナイフによる放射線治療を提供	・現在、病院建替え工事中 ・2020.2月 第一期工事終了 100床(一般急性期96床、ICU4床)へ増床予定 ・2022.2月 第二期工事終了 324床(一般急性期100床、ICU4床、回復期100床、療養100床)へ増床予定	・地域の急性期医療を充実させるため救急告示病院の認定取得(2020.2月予定) ・サイバーナイフ導入、放射線治療部門新設(2020.2月予定) ・視聴覚センターの提供の継続、救急医療への参画、サイバーナイフによる放射線治療の提供も予定 ・2022年に終了する二期工事で回復期100床を設置	・工事の関係もあり48床が稼働 ・白内障を中心とした眼科、耳鼻科の急性期医療、血液透析から末期透析等に対応している。 ・2025年に向けた方針は、急性期104床、回復期100床、慢性期120床の合計324床での運用を予定し、視聴覚センターの提供の継続、救急医療への参画、サイバーナイフによる放射線治療の提供も予定 ・2022年に終了する二期工事で回復期100床を設置				
医療法人社団康心会	稼働病床	48				48	48				48							-	+38	+100	+120	-	-	+258					2018年度～ 現在工事中	配分済 100床 移動 158床		
湘南東部総合病院	許可病床	264	40	44		348	239	53	12		304	○	○	○					231	40	12			283	・急性期から緩和医療までの医療を担う総合病院として、単なる総合病院でなく専門性の高い診療科を有する病院を構築。いわゆる地域完結型総合医療を目指す。患者が自分の居住地域で十分な医療を受けられることができる。その後、在宅医療への展開など、地域に密接に関連した役割を担う。 ・湘南東部医療圏での急性期病院としての機能(救急・入院・外来)の拡大と充実	・2020.3月 21床減床 茅ヶ崎中央病院立替え工事に伴い病床移動していた21床分を開設に伴い返還 ※71床(急性期)の増床 71床(減床(返還)した21床分+50床)の急性期の増床を予定。病床配分がない場合は、法人内で病床を融通して整備を行うことも検討。	・肝臓病センターとして診断と治療、外来を一化した専門性のある診療科を目指す。 ・脳神経センターとして脳外科及び脳神経内科の体制を充実(2019年度以降) ・グループ内心臓専門病院と当院の循環器内科との連携により、質の高い循環器及び心臓疾患の治療を予定(2019年度以降)	・2018年11月から回復期2病棟を1病棟に集約、現在回復期を40床で運用中。残る13床は急性期病床に切り替える予定 ・慢性期12床は自動車事故対策機構(NASVA)の委託病床 ・2025年に向けて急性期71床の増床を希望 建替工事中の茅ヶ崎中央病院から移動してきている21床を工事後に返還すると、急性期機能が不足するため、まず21床分の増床を希望。また今後、整形外科、脳外科の医師を充実させ、急性期を更に50床増床希望(計302床)、2025年には精神科を除き354床で運営していきたい				
医療法人社団康心会	稼働病床	264	40	44		348	239	53	12		304	告示	32床	53床				※	302	40	12			354					2019年度～			
																		※	+63	△13	-	-		+50								
長岡病院	許可病床		222			222			222		222													222	・安心して過ごせる看取りの環境 ・レスパイトや緊急入院の受け入れ等による在宅医療のバックアップ	介護療養病床から介護医療院への転換(時期未定)	・介護療養病床56床を6年の経過措置期間内に介護医療院に転換予定 ・2025年には、慢性期166床、介護施設等56床となる予定					
特定医療法人社団湘南健友会	稼働病床		222			222			222		222								-	-	-	-	-	-				時期未定				
茅ヶ崎徳洲会病院	許可病床	132				132	132				132	○	○	○					124	8				132	急性期医療・回復期・在宅診療の切れ目のない医療を展開出来る体制を確立し、超急性期からの受入れも積極的にを行い、総合的な診療、認知症対策、予防医療、地域連携、行政や医師会との連携強化を含む地域包括ケアシステムの中心的な役割を担う	急性期から回復期・慢性期・在宅と切れ目のない医療を展開するためにも、現在の病床に加え慢性期の病床を40床程度増床したい	・近隣に超急性期の系列病院があることもあり、将来的に、在宅や看取りなどを含めて地域に根差した急性期～在宅、地域包括ケアを中心としていく構想がある ・ロボット手術を取り入れた先端医療にも取り組む ・病床稼働率は、11月は83%まで上がってきている。急性期として95%稼働させつつ、将来的に慢性期で40床程度増床できればと考えている					
医療法人徳洲会	稼働病床	132				132	132				132	告示	8床						-	△8	+8	-	-	-				時期未定				
寒川病院	許可病床	99				99	99				99	○	○	○					99					99	引き続き、連携を強化し、ポストアキュート、サブアキュートを担う病院を目指す。 医療と介護の連携拠点となる。		・大きな転換等は考えていない。周りの施設や先生方と連携を深め、医療と介護の拠点の病院として寒川町でやっていくべきと考えている。					
宗教法人寒川神社	稼働病床	99				99	99				99	告示	19床						-	-	-	-	-	-								
湘南東部民間計	許可病床	2,066	1,149	44	0	3,259	166	1,379	521	1,149	0	3,215	13	3	9	6	7	2	166	1,430	614	1,058	0	60	3,328							
	稼働病床	2,048	1,149	44	0	3,241	166	1,361	521	1,149	0	3,197		67床	266床	338床				-	+51	+93	△91	-	+60	+113						

